

ガバナンス体制の整備について

株式会社伊予銀行

専務取締役 永井 一平

基本的な考え方

＜企業理念＞

存在意義	潤いと活力ある地域の明日を創る
経営姿勢	最適のサービスで信頼に応える
行動規範	感謝の心でベストをつくる

株主さま、お客さま、地域の皆さま、および従業員等のゆるぎない信頼を確立し、地方銀行としての社会的責任を果たしつつ、企業価値および経営の健全性向上を図ることを目的に、コーポレートガバナンスを経営上の最優先課題の1つとして取り組む

「監査等委員会設置会社」への移行

平成24年9月

「会社法制の見直しに関する要綱」公表



平成25年4月

弁護士を講師とした勉強会を実施



平成26年12月

常務会報告



平成27年1月

監査役および社外取締役候補者に事前説明



平成27年3月

取締役会決議、对外公表

地銀初

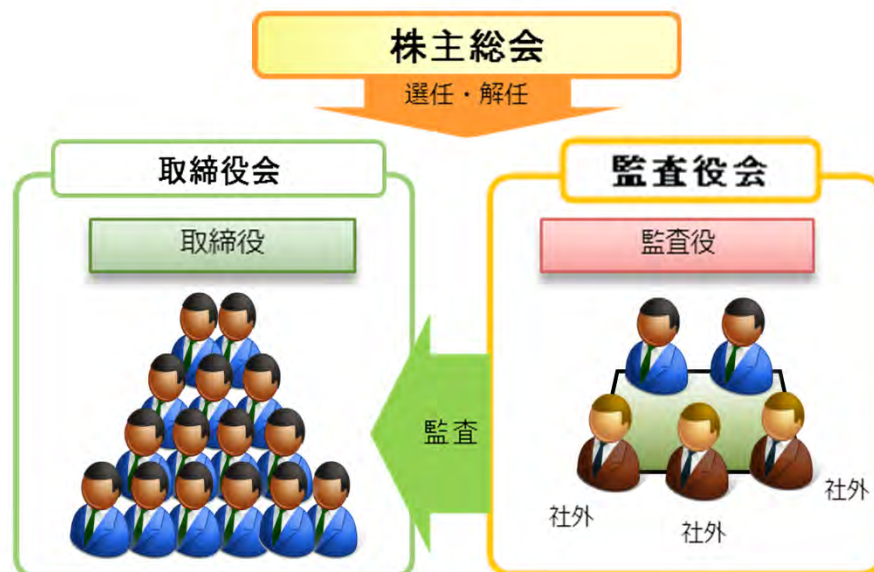


平成27年6月

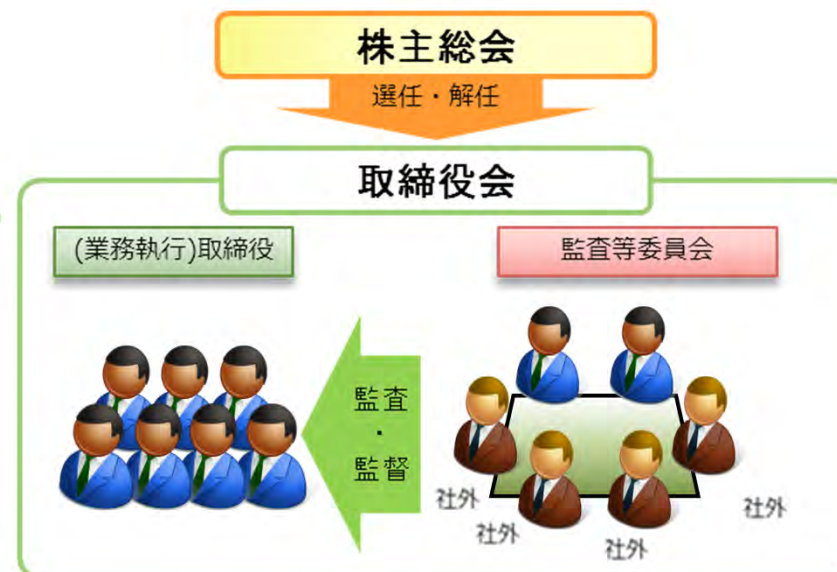
株主総会承認、監査等委員会設置会社に移行

移行の目的

<Before>



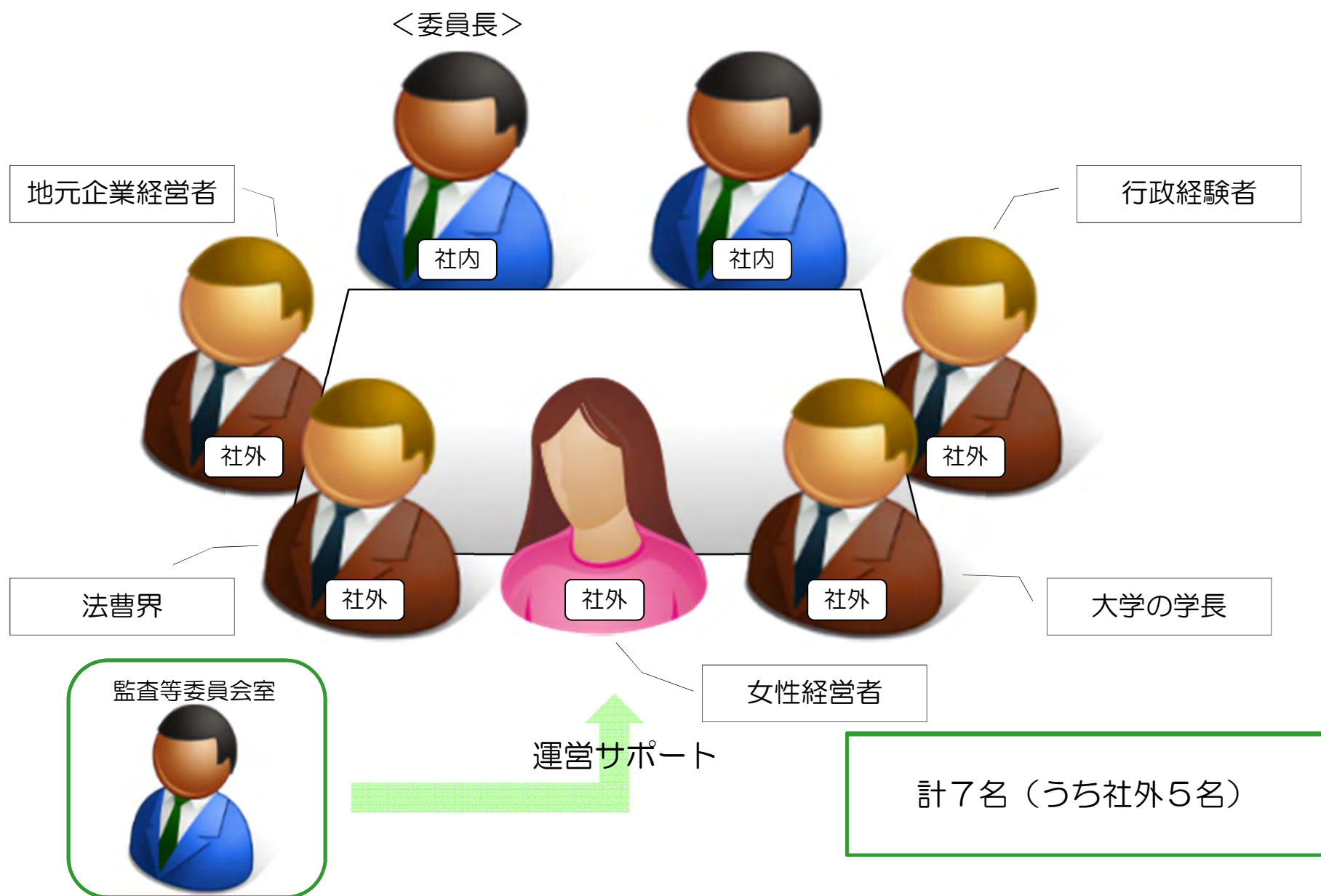
<After>



目的

- ✓ 監査・監督機能およびコーポレートガバナンスの強化
- ✓ 取締役への業務執行の委譲による迅速な意思決定と取締役会の議論活性化、監督機能の強化

監査等委員会の構成



行内会議への出席と各種トレーニング

監査等委員である取締役は常務会等の主要な行内会議に出席し、意見を述べることができる。



各種トレーニング

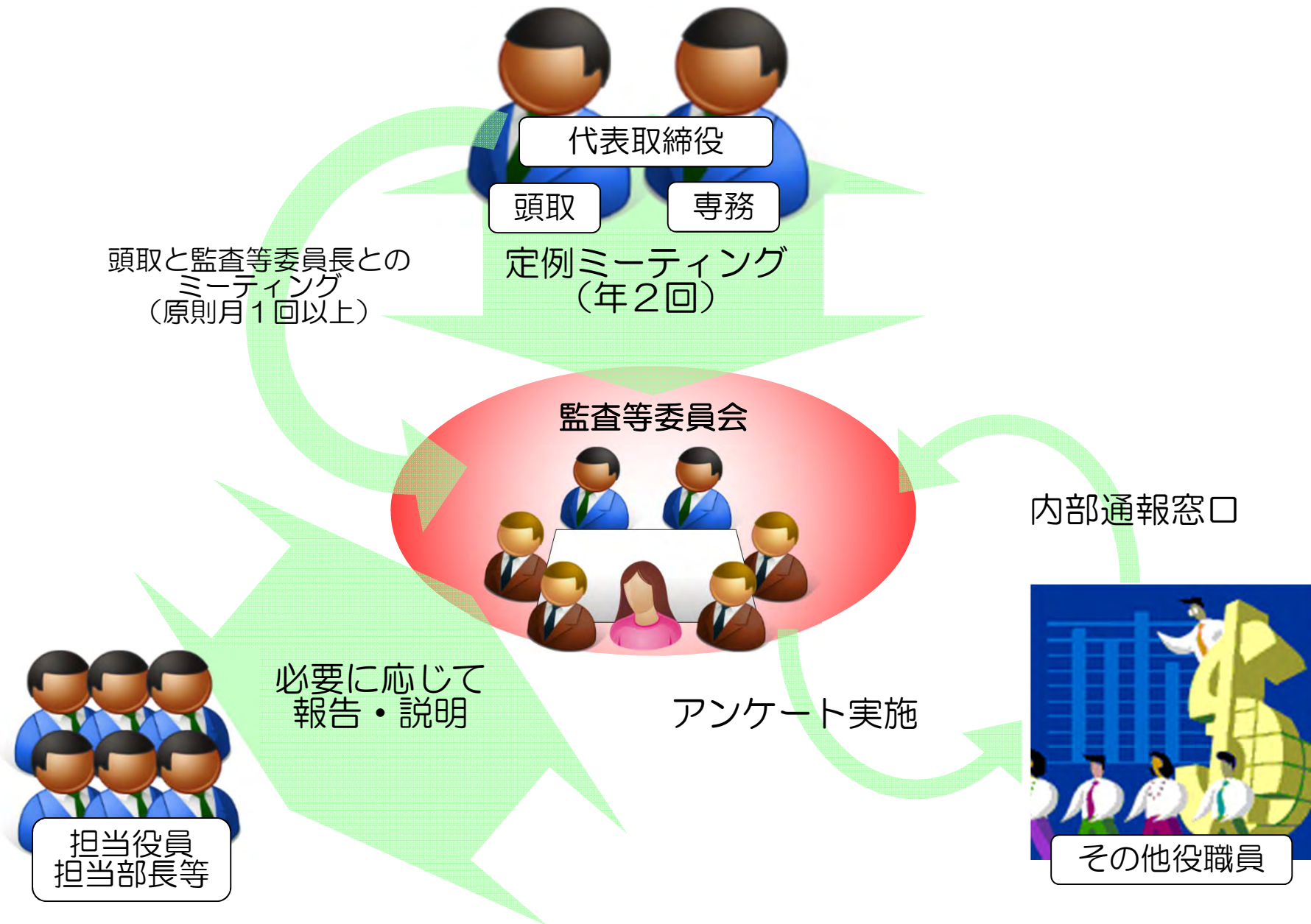
銀行業務
説明会

各種行内
勉強会

社外役員
研究会

監査役
全国会議

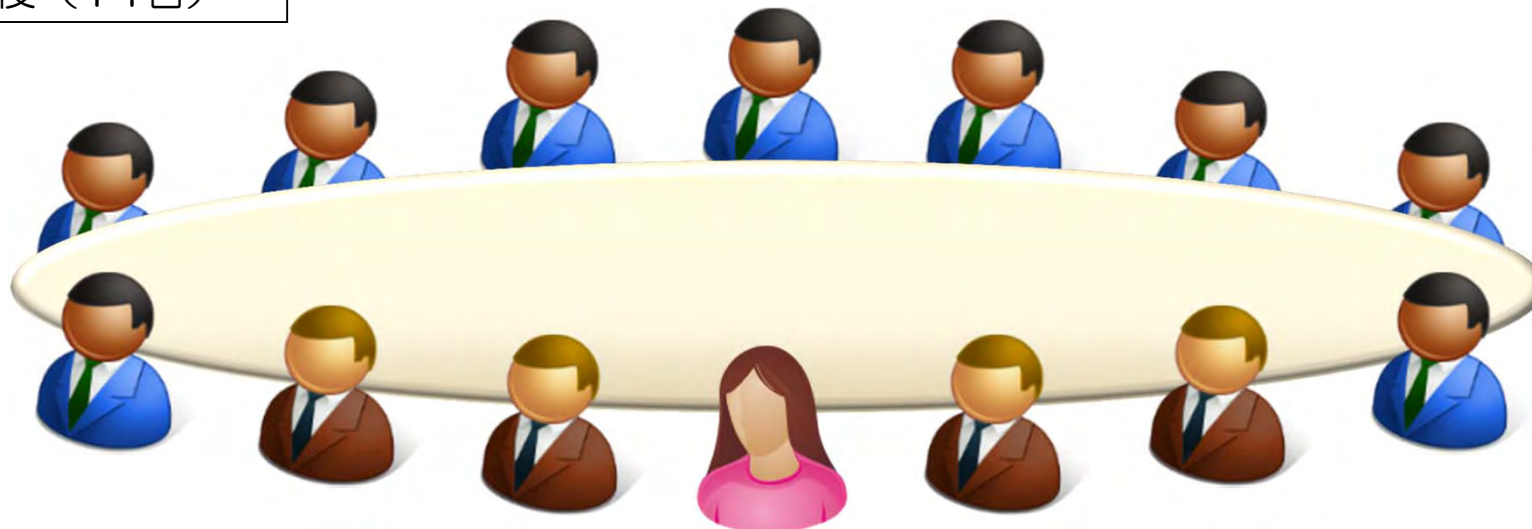
報告体制の整備



取締役会の概要

取締役（14名）

議長（頭取）



執行役員（15名）・・・報告案件のみオブザーバー参加



- ✓ 原則月1回開催。1回あたり2時間程度。
- ✓ 開催日の概ね3週間前には主な決議事項を通知。
- ✓ 決議事項について、法令の範囲内で、業務執行取締役に委任するよう変更。
⇒ 監査等委員自己監査の排除、意思決定の迅速化がねらい

「取締役会評価」アンケート（第1回）

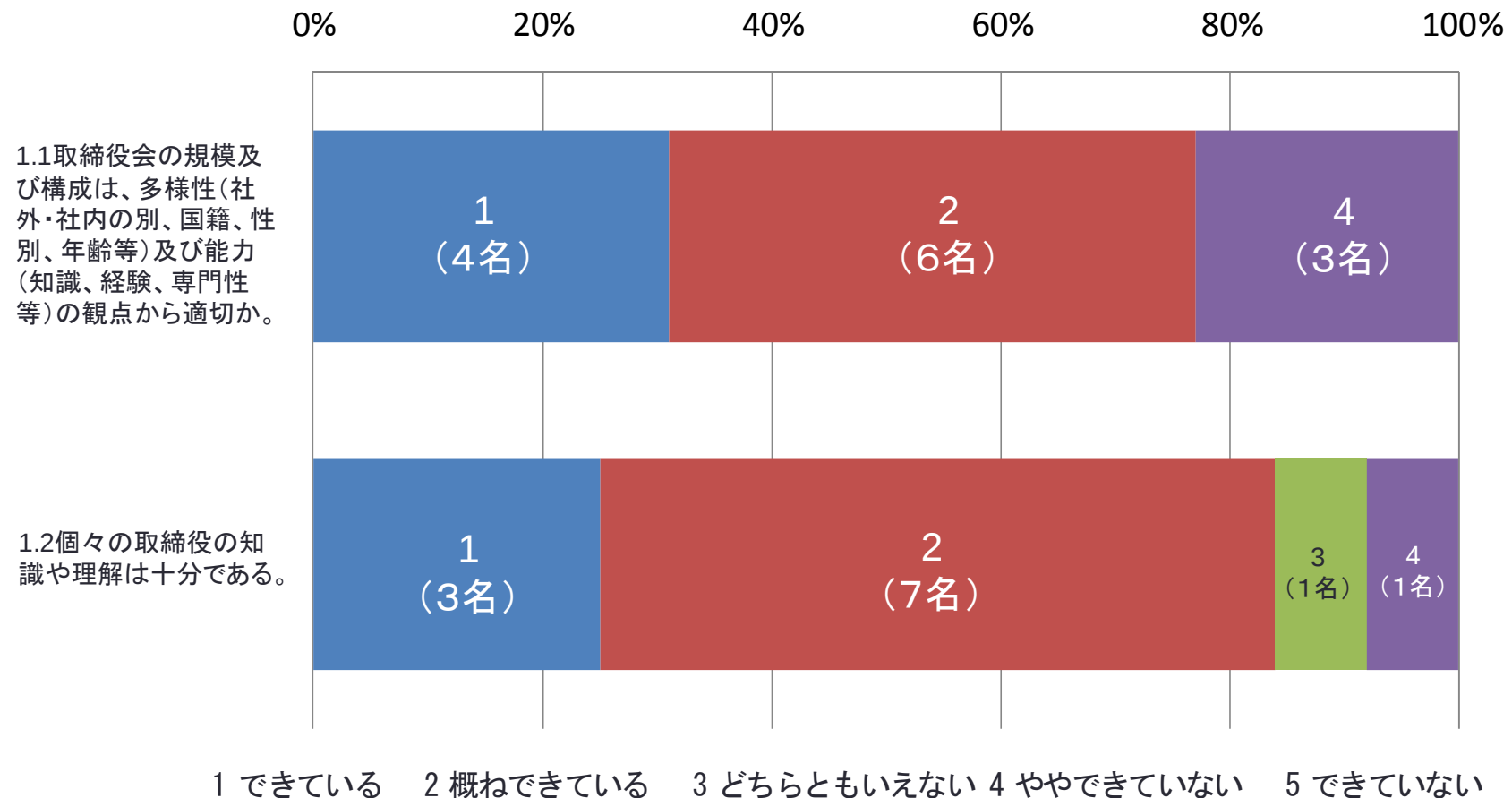
＜アンケート実施内容＞

対象者	
対象数	13名
回答方式	記名方式
質問内容	別紙のとおり 1（できている）～5（できていない）の評価 および自由回答
アンケート結果の集計	総合企画部・秘書室

取締役会の変化（取締役会評価より）

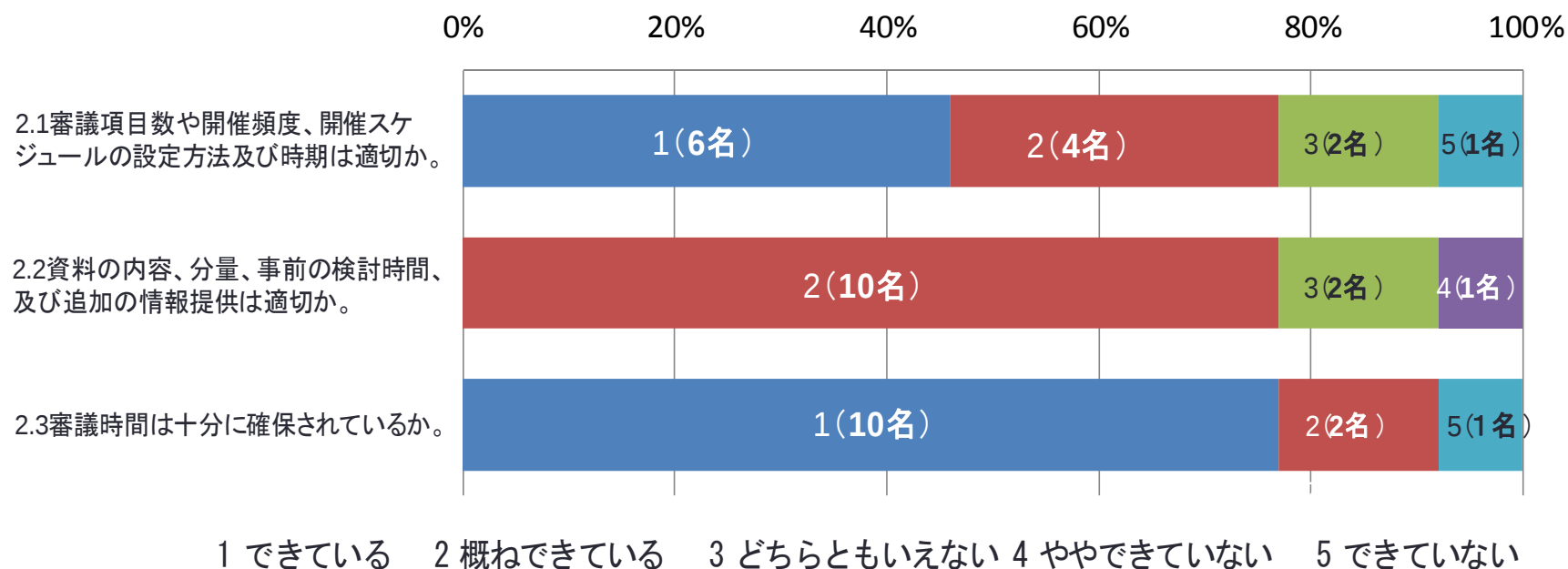
取締役会の構成

N=13

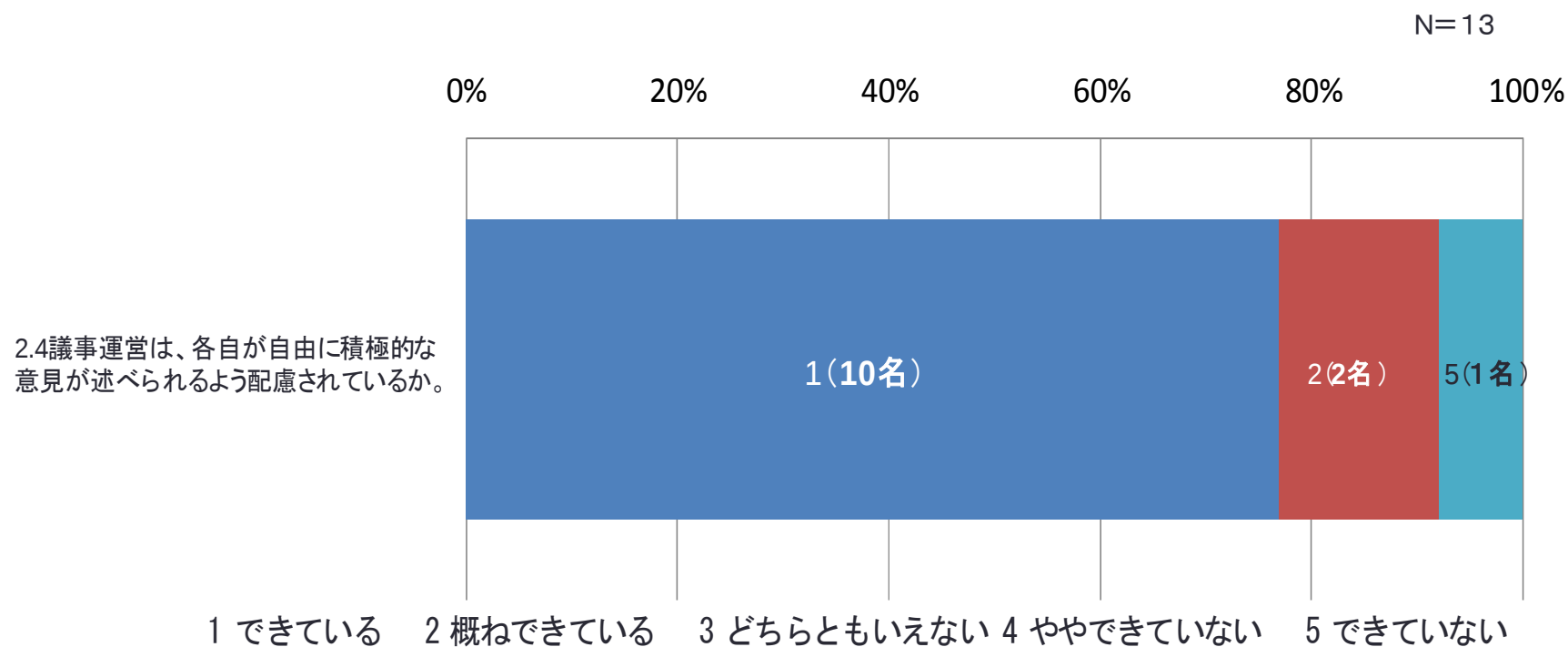


取締役会の運営状況(1)

N=13

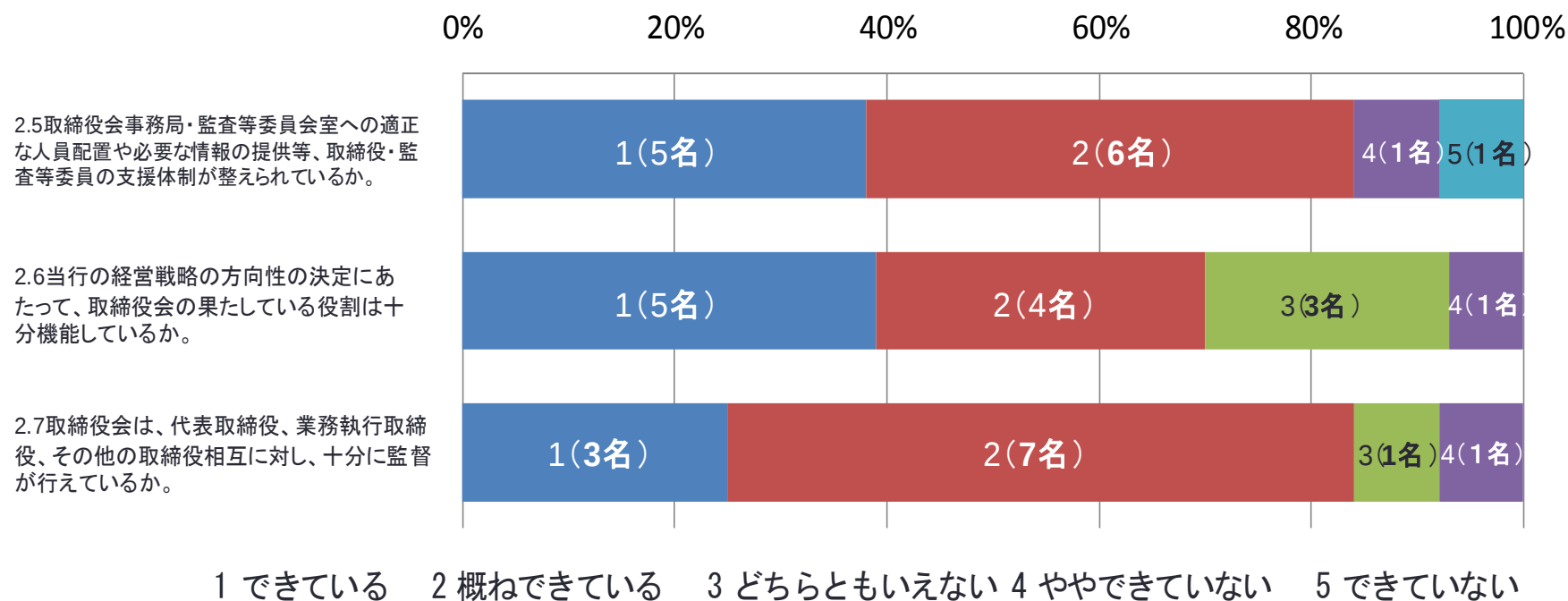


取締役会の運営状況(2)



取締役会の運営状況(3)

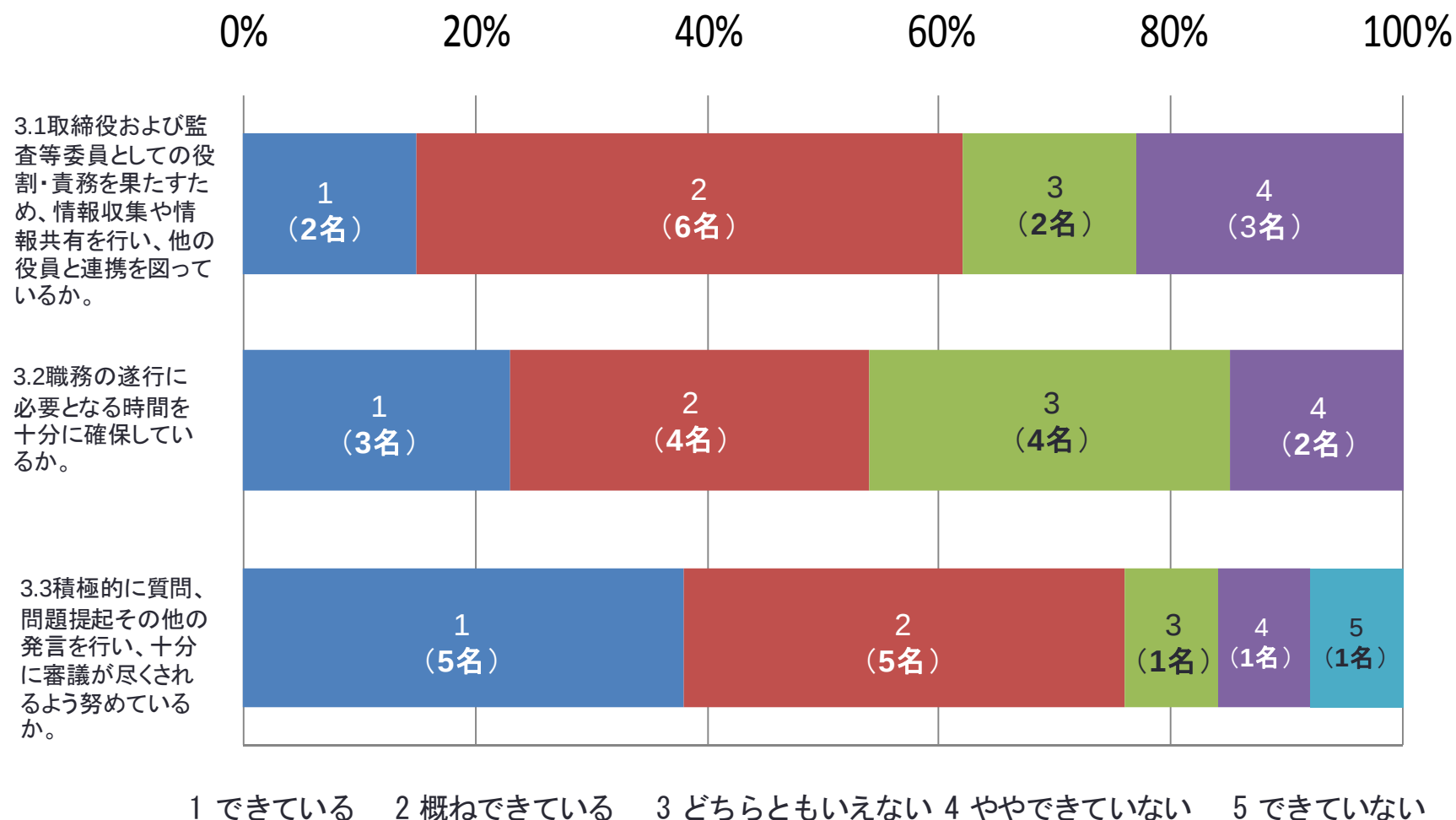
N=13



取締役会の変化（取締役会評価より）

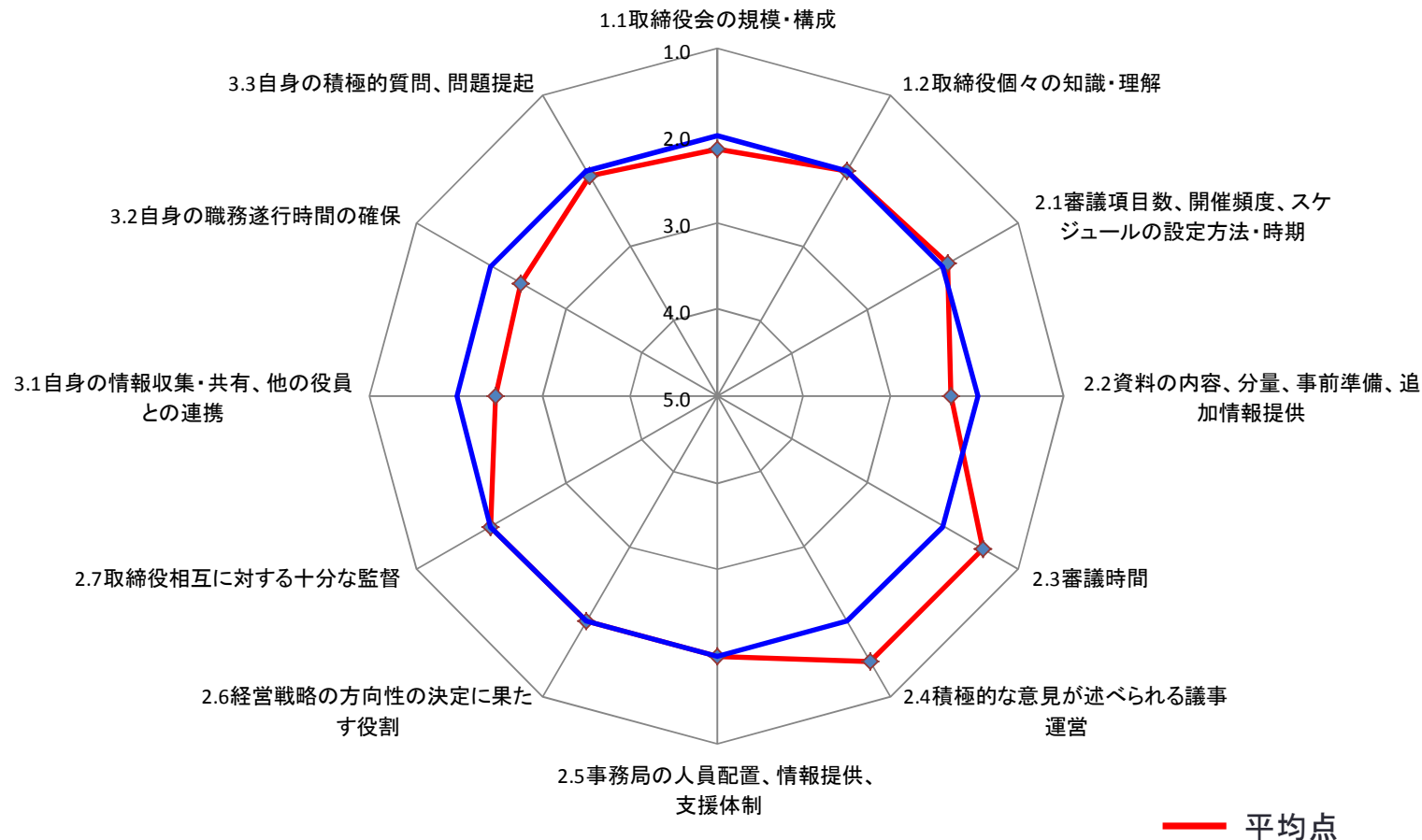
自身の取組について

N=13



取締役会の変化（取締役会評価より）

レーダーチャート分析(平均点評価)



取締役会の変化（取締役会評価より）

課題に対する改善策

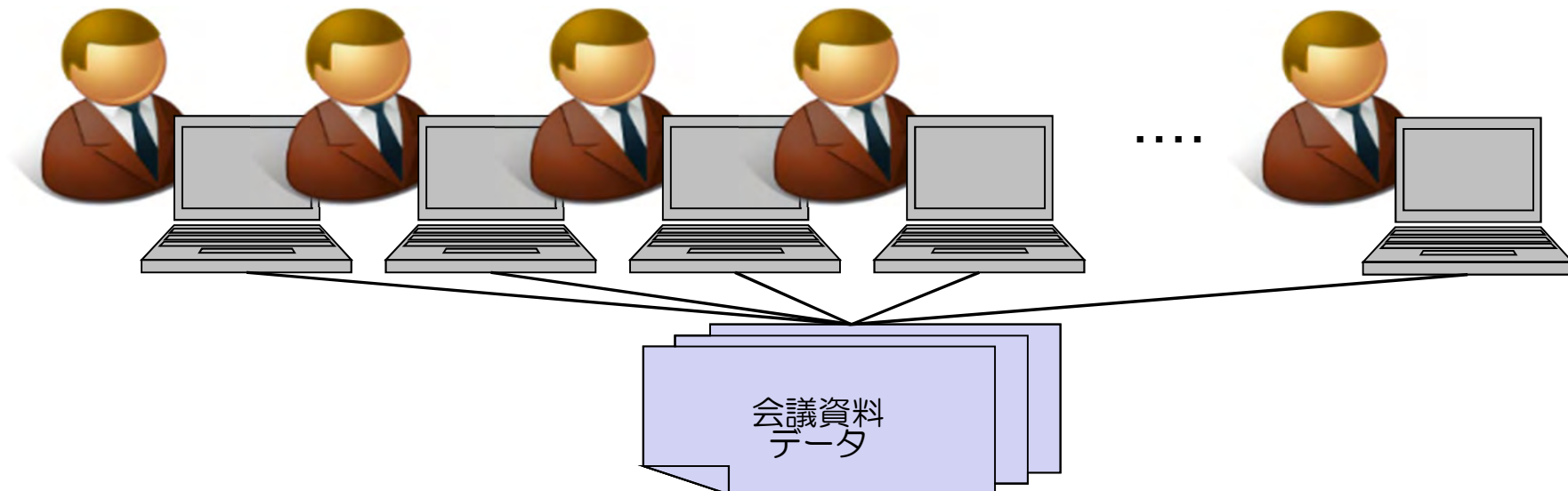
質問項目	課題	改善策
・資料の内容、分量、事前準備、追加情報提供	1.資料の早期配付 2.資料の検討時間が不足	1.取締役による資料提出の期限厳守徹底 2.資料の適時送付のためのI-PADの活用 3.重要会議資料および議事録等、経営情報のデータベース化による情報の適時提供・取得 4.資料の分量、簡素化の追求
・取締役会の規模・構成	1.多様性欠如	1.女性役員登用の検討 2.CGCに沿った社外取締役の員数確保
・経営戦略の方向性の決定に果たす役割	1.経営戦略の決定への一層の深化 2.経営戦略の社外取締役への十分な説明と議論の機会提供	1.経営戦略の議論充実のための適時・適切な取締役会付議議案策定 2.社外取締役の経営会議等での審議機会の増加
・(自身の取組) 1.自身の情報収集・共有、他の役員との連携 2.自身の職務遂行時間の確保 3.自身の積極的質問、問題提起	1.取締役相互の情報提供・連携不足 2.情報収集不足 3.担当所管部との協議時間の確保	1.各取締役の意識・行動改革 2.社内・社外および社外取締役間での情報共有機会の設置 3.重要会議コンテンツによる経営情報の適時取得

会議運営方法の改善

＜会議前＞ モバイル端末でいつでもどこでも会議資料を閲覧



＜会議時＞ 会議自体をペーパーレス化



アドバイザー・ボード

設 置 月	平成27年7月
メ ン バ ー	当行取締役全員 + 外部有識者2名
開 催 頻 度	年2回
目 的	当行グループの経営の透明性と客観性を確保し、一層の経営体質の強化と地域貢献を果たしていくことを目的として、当行グループの経営戦略、ガバナンス等に関して外部の視点を取り入れる。
こ れ ま で の マ	【第1回】 (1) 当行の現状と2015年度中期経営計画 (2) ICT戦略への取組み (3) ダイバーシティへの取組み 【第2回】 (1) 中間・第3Q決算、経営計画の進捗状況 (2) FinTechへの取組み (3) ダイバーシティへの取組み (4) 地方創生への取組み

取締役会運営の改善

- ✓ 各取締役のフォロー継続
- ✓ 会議資料の改善（銀行目線からの脱却）
 - 簡潔で、ポイントを捉えた内容の追求



取締役会評価のレベルアップ

- ✓ 評価項目のブラッシュアップ
 - 「後継者計画」「取締役トレーニング」等
- ✓ 外部評価の導入検討



経営の意思決定・監督と執行の分離

- ✓ 取締役が経営の意思決定と監督に専念できる環境の整備が必要
 - 執行役員への権限委譲

指名・報酬委員会の設置検討

- ✓ 現段階では、監査等委員会が類似した機能を有していると考え、具体的な検討は行っていない
- ✓ グローバル基準を見据え、情報収集と研究は継続していく

END